

# 授業マイスター研修(中学校国語科)

授業マイスター 松崎中学校 教諭 横内 愛

担当指導主事：時村 孝完

キーワード：指導力向上 ICT 学習指導要領 主体的・対話的で深い学び 評価

## 1 実施概要

実施月日	講師等	場所・形態	演題（またはテーマ）
11月1日（金）	松崎中学校 横内 愛 教諭	松崎中学校 1年5組教室・公開授業 図書室・研究協議	古典「竹取物語（第1学年）」

## 2 主な内容

### (1) 今回の授業づくりの目的

中学校における古典の指導においては「古典に触れる」「古典を楽しむ」「古典に親しむ」ことをねらいとし、「古典を主体的に読むこと」が求められる。小学校から高等学校までの系統的な古典学習の中で、中学校では「古人と自分たちをつなぐ古典に自ら向き合い、時をへだてて通い合うものをとらえ、ものの見方や考え方を広げること」を育成する指導を重視している。古典を主体的に読み、深めるには、仮名遣いや基本的な文法、古語の意味等、古典に親しむために必要な知識を習得するとともに、これらを活用しながら読むことを学習活動の中心に据えることが必要だと考える。本単元では生徒たちが「古典に親しみ、音読ができるようになること」「自分で現代語訳ができるようになること」を目標とした。

また、国語科は言語に関する能力育成の中核を担う教科として、生活やすべての教科の学習に必要な能力を身に付けるための言語活動を常に行う必要がある。本単元での学びを、キャリア発達にかかわる基礎的・汎用的能力である「人間関係形成・社会形成能力」「課題対応能力」の育成にもつなげるため、活動内容を設定した。

### (2) 今回の授業づくりの工夫について

#### ① 古典に親しみ、音読ができるようになるための工夫

- ・ICTを用いたフラッシュカード型教材を活用し、月の異名や歴史的仮名遣いの学習を行う。
- ・「NHK for school」の動画を活用し、作品の概要をつかませる。
- ・ペア学習を取り入れ、疑問や理解を共有させる。



#### ② 自分で現代語訳ができるようになるための工夫

- ・本文のみが書かれたワークシートを配り、ノートづくりをさせる。
- ・意味の分からない語やフレーズを質問させ、教師が語注を板書し、ノートに写させる。
- ・語注を手がかりに、意味が分かる言葉に置き換えさせる。
- ・ペア学習を取り入れ、疑問や理解を共有させる。



### (3) 研究協議の内容

- ① 本時の目標と振り返りについて
- ② 学習規律について
- ③ 授業の進め方（時間配分、現代語訳の分量、教師の説明、ペア学習等）について
- ④ 生徒たちに意欲を持たせる活動内容や声かけについて

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

古典の授業は教師の説明が中心となりがちな領域であるが、今回の公開授業と研究協議を通じて生徒たちが主体的に学ぶための指導方法を具体的に学ぶことができた。また、主体的な学びを支えるための学習規律や生徒理解、基本事項の定着についても協議することができた。

#### (2) 課題

具体的・実践的に学んだり交流したりできる講座を継続的に実施し、若手教員だけでなく、多くの教員が互いに授業力を高め合う必要がある。